第 66 回日経・経済図書文化賞決まる[1]

2023年 11 月 3 日発表

日本経済新聞社と日本経済研究センター共催の 2023年度・第 66 回「日経・経済図書文化賞」受賞図書は、次のように決まりました。

《受賞図書》

賞（賞金 100 万円および副賞として記念品を著者へ、賞牌を出版社へ贈呈）

『現代日本の消費分析』
宇南山　卓著　（慶應義塾大学出版会）

『行動経済学』
室岡　健志著　（日本評論社）

『民主主義を装う権威主義』
東島　雅昌著（千倉書房）

『歴史学派とドイツ社会学の起原』
竹林　史郎著　（ミネルヴァ書房）

『哲学と経済学から解く世代間問題』
廣光　俊昭著　（日本評論社）

総　評

最先端の理論で現実分析

審査委員長／東京大学名誉教授　吉川　洋

新型コロナウイルス禍からの回復が進むなか、優れた研究書に恵まれた１年だった。とりわけ最先端の経済理論を駆使して現実の経済現象を体系的に分析する良書が目を引いた。

経済活動の最終目的とも言える家計の消費は国内総生産（ＧＤＰ）の６割を占める。『現代日本の消費分析』（宇南山卓著）は、消費に関する現象を分析する経済学の理論的枠組み「ライフサイクル理論」を日本経済に適用した本格的な研究書だ。独自の背景により消費行動にも日本固有の動きが生み出されていることが明らかにされる。消費喚起はいつでも人気のある政策だが、これについても重要な知見を提供している。

[1] 「総評」・各受賞作品「書評」は、2023 年 11 月 3 日付日本経済新聞より許諾を得て転用したものです。

経済学の理論は合理的な「経済人」を仮定する。だが現実の人間はそれほど合理的でないことは、誰でも自分の経験から納得できるはずだ。近年、これを真正面から分析する行動経済学が注目されている。『行動経済学』（室岡健志著）は、単なる心理学の応用ではない新たな経済学の一分野として包括的に論じる。

民主主義の象徴とも言える選挙は民主主義国家の専有物ではなく、権威主義の国でも行われる。憲法を改正してまで習近平国家主席が３選を果たした中国や、プーチン大統領のロシアを見れば明らかだ。『民主主義を装う権威主義』（東島雅昌著）は、カザフスタンとキルギスのケーススタディーを通して、この今日的な問題の実証分析を行った研究書である。本書のテーマは民主主義国家における政権維持にもつながる現代政治の基本問題である。

『歴史学派とドイツ社会学の起原』（竹林史郎著）は、一部の専門家を除き経済学の世界では忘れられた存在とも言えるドイツ歴史学派に関する重厚な研究書である。19 世紀末に勃興したシュモラー、ブレンターノらの経済学は、マルクス、エンゲルスの主張から学びつつも独自の資本主義論を展開した。それは弟子のゾンバルト、ヴェーバーの社会学へ継承されたが、その大きな学問の流れを本書は細密画として描き出す。

理論経済学で用いられる消費の動学的モデルを最初に考案したラムゼーは、今に生きる現世代がいまだ生まれていない将来世代の効用を割り引いて捉えることは道徳的に許されないと強調した。『哲学と経済学から解く世代間問題』（廣光俊昭著）は、この問題を多角的な観点から考察する。地球温暖化や公的債務の問題など我々が直面する課題への対処に示唆を与える優れた学術的貢献である。

受賞作以外にも多くの書物が好著との評価を得た。

『少人数学級の経済学』（北條雅一著）は、学級規模の縮小に教育効果があるという貴重な実証研究である。ただ仮定にやや無理があるとの指摘もあった。

『入門　開発経済学』（山形辰史著）は、途上国の悲惨な実情を豊富なデータで示し、支援を含む持続的発展の道筋を明快に議論する。「入門」の域を超えた啓蒙性が評価されたが、学術的な独創性が買われた候補作に譲る形となった。

『社会的企業の挫折』（一柳智子著）は、ケニアで社会的貢献を目標に活動する営利型社会的企業をめぐる、現地での丹念な調査に基づく研究である。米国の新自由主義者が礼賛する営利型社会的企業が必ずしも成功していないことを明示した点を評価しつつも、若干偏りが感じられるとの指摘もあり選外となった。

『成長の臨界』（河野龍太郎著）は、著名な論客が様々な学問を動員して立ち向かった読み応えのある日本経済論である。ただ長期停滞を脱却する処方箋について、さらに踏み込んだ分析を期待する声があった。

最後に特筆すべき一冊として『コロナ危機、経済学者の挑戦』（仲田泰祐・藤井大輔著）がある。著者らは新型コロナの感染状況とマクロ経済を統合したシミュレーションで政府のコロナ対策、東京五輪開催に大きな影響を与えた。その経緯をインタビュー形式で語った本書は、経済学がどのように社会に貢献できるかを示す貴重な記録だ。２人の著者による将来の優れた研究書にも期待したい。

◇審査対象

2022年7月 1 日から 23年 6 月 30 日（外国語著書は22年 1～12 月）の間に出版された日本語または日本人による外国語で書かれた著作で、本賞に参加を得たもの（一般の人が自由に購入できる図書に限る）。

◇審査委員

（委員長）吉川 洋　東京大学名誉教授

（委　員）杉原 薫　総合地球環境学研究所客員教授・名誉フェロー

伊藤元重 東京大学名誉教授

井堀利宏 政策研究大学院大学客員教授

徳賀芳弘 京都先端科学大学教授

深尾京司　日本貿易振興機構アジア経済研究所長・一橋大学特命教授

岡崎哲二 東京大学教授

福田慎一 東京大学教授

翁 百合　日本総合研究所理事長

沼上 幹　早稲田大学教授

大竹文雄　大阪大学特任教授

細野 薫　学習院大学教授

松井彰彦　東京大学教授

中林真幸　東京大学教授

神田さやこ 慶應義塾大学教授

川口大司　東京大学教授

北尾早霧　東京大学教授

藤井彰夫　日本経済新聞社論説委員長

岩田一政　日本経済研究センター理事長